

TEC安全委員会ワークショップ報告！

今年に入ってから、私共の業界で頻発している墜落死亡災害

TEC安全研究委員会としましては、組合員、賛助会員の企業に対し、警鐘を鳴らすべく、再発防止を呼び掛けるため、2月21日 東京 西日暮里のビルメンテナンス会館に於いて、今期第2回となる安全研究委員会ワークショップを行いました。

今回のテーマは、

“緊急事態！重篤災害根絶の術！！” Part 2

スマホでアツという間にできちゃう！！
調査記録表&作業計画書の作成方法をお教えしちゃいます。



開催挨拶を行うTEC日吉理事長

開会に当たり挨拶に立った日吉理事長は、TECは組合員のためだけに活動しているのではなく、同業者の役に立ちたいと考えていると持論を強く述べたうえで、第1部で紹介する簡単に調査記録表や作業計画

書が作成できるアプリが、ブラッシュアップしながら業界全体に広がっていくことへの期待を表明しました。

第一部：

前半は労働安全衛生規則(安衛則)でロープ高所作業(ブランコ作業)時に義務付けられている「調査記録表」「作業計画書」について講義を行います。



教壇に立ち解説を教示するTEC安全研究委員会 三原委員

安衛則ではロープ高所作業を行う際、事前に現場を調査し結果を記録するとともに、結果に基づいて作業計画書を作成し計画書通りに作業を行うよう規定しています。

今回紹介されたアプリは(株)クリーンシステム科学研究所が開発した「123レポーター」同社の矢島正貴氏と、当協会の安全研究委員会委員である(株)大昇ビルメンテナンスの三原正和業務部長が開発経緯や取り扱い方法をスマートフォン、iPadを使用して、現場で簡単に作成できるアプリの紹介と解説を行い、デモンストラーションと進みます。

三原委員は、調査記録表や作業計画書は作業方法や手順、安全対策を作業従事者に伝えて、的確に作業してもらうためのものであり、作業の安全を確保するうえで欠かせないものであることを強く訴えます。

そして今回紹介するアプリは、現場で簡単に使えるよう矢島氏と共同でアレンジしたものであり、安衛則の規定に則りロープ高所作業に適した形のテンプレートにしたものであることを説明、実際の作成例を紹介したうえで、矢島氏は、実際に入力しながら使い方を解説します。



デモを行う㈱
クリーンシステム科学研究所

矢島正貴氏

このアプリは、

現場調査時にスマホで撮った写真をそのまま入力できる

○文字は音声でも入力できる

テンプレートには一般的に記載すべき事項があらかじめ選択肢として示されている

独自のフォーマットの作成も可能

点検記録表や作業計画書以外でもエクセルに変換するデータであれば汎用できる

等々、特性と使いやすさを説明します。



実際に iPad を手に取る受講生！

興味深い講義内容に、受講生の皆さまは、真剣に聞き入り、そして実際に入力を試みます。



受講生から活発に質問や意見が飛び交います。

第2部:

昨年7月の第1回に引き続き、安全研究委員会 本多委員長氏が「緊急事態！重篤災害根絶の術!!パート2」と題して講演を行います。

自らが経験した事故事例も紹介しながら、根本的な安全対策とは何かという視点で持論を展開していきます。

例を挙げれば、いくら注意していても交通事故は今もなお発生しています。これをドライバーのミスということで片付けていけば、事故は減少するわけではありません。自動ブレーキ(衝突被害軽減ブレーキ)の導入が必要不可欠なのです。そしてこれにより、ヒューマンエラーをカバーすることができます。鉄道も 마찬りです。速度照査用の自動列車停止装置のような設備が十分に設置されていれば、仮に運転士がスピードを出しすぎたとしてもそれを補い脱線することにはならないでしょう。



講義を行う本多委員長

事故発生時には、“ヒューマンエラー”を原因として片付けられることが非常に多く、再発防止策として、再教育といったソフト面の対策だけで済まされていることもあり、これでは同様の事故を防ぐことはできません！

事故が起こり得ない対策が必要です。そしてそれはソフト面の対策だけではなくて、ハード面の対策なのです。

ソフト面でエラーが出たとしても、それを外側から包み込むハード面が確立されていれば、事故は未然に防ぐことができます。

言い換えれば、事故を起こしたくても起こせないといった作業環境を整備することこそが抜本的な安全対

策といえるのではないのでしょうか！！

ハード面の対策には建物オーナーや管理会社(元請け)のご理解が必要であり、改善となるとなかなか難しいケースもあります。

でも、私たちは高所作業という非日常的(危険)な環境で作業を行っているわけで、そのことをご理解していただく取り組みが必要ではないのでしょうか？などと熱い持論を展開していきます。



資器材や用具に関してもそれらに潜む危険の要因について和やかに進めていく

そしてまた、厳しい環境下では、作業者に思わぬ負荷がかかり、通常使用する用具において、ややもすると最悪危険な凶器となり得ることがあります。

ではどのようにすればよいのでしょうか？

そのためにも常日頃から、危険となり得る可能性のファクターの情報収集を行うことが再発防止においても重要なのです。

ということで、実際の用具とパワーポイントで解説します。



ワークショップ終了の挨拶を行

うTEC大山専務理事

あっという間に時間となり、終了時はTEC 大山専務理事より皆様にご挨拶をいたします。
当ワークショップは、多くの方にご参加いただき、盛況のうちに終了となりました。

安全研究委員会ワークショップは来期も開催を予定しています。
次回も多くのご参加をお待ちしています。

東京外装メンテナンス協同組合